

宮城県職員を志した理由は？



伊豆

オープン・オフィスやOB訪問で先輩の話聞き、雰囲気の良さを感じました。社会に貢献できる仕事は民間企業にもたくさんありますが、いつの時代も公務員が地域社会を支える不可欠な役割を果たすことは変わりません。特に、地域住民の声を聞きながら、広域的な社会の仕組みや制度を創造していく県職員の仕事は、国家公務員や市町村職員にはない面白味があると思いました。



田村

私は秋田県出身ですが、東北人として、これからの東北を引っ張っていく力があるのは宮城県しかないと考え、宮城県職員を選択しました。また、先輩職員とお話した際、いきいきと業務の話がされていたことが気持ちを後押ししました。学生時代の専門は理系でしたが、様々な分野から宮城県の向上に繋がる仕事をしたいと思い、技術職ではなく行政職を選択しました。



橋本

生まれ育った宮城に貢献したいと思ったのが最大の理由です。実家がある角田市にも、学生時代に通学した仙台市にも、それぞれにたくさんの魅力があります。県職員であれば、地方と仙台の両方に関わることができ、地域の魅力発信や暮らしの向上に貢献できると考えました。また、福利厚生が充実しており、働きやすそうな環境であることも魅力的でした。

実際に働いてみて良かったことや働く前のイメージとギャップを感じたことは？



伊豆

尊敬し目標とする先輩にも出会え、入庁して良かったと思う一方、想像以上だったことが二つあります。一つ目は、仕組みや制度を作っても、機械的に運用できるものではなく、現場の実情や住民の声を踏まえ、柔軟な対応が求められること。最終的にはAIではなく人間の対応力が重要だと感じます。二つ目は、いつになっても新しいことを勉強し続けていく必要があることです。県内の様々な地域や幅広い分野の知識が必要なことに加え、デジタル化やコロナ対応など、ここ数年でも社会状況が大きく変わり、日々アップデートの重要性を痛感しています。



田村

どんな業務であっても法令が付きものであること、決められた範囲で最大限の効果を生み出す方法を常に考えながら業務を遂行しなければならないことはイメージ以上でした。柔軟な思考力や迅速な対応力が必要とされ、そうした能力に優れた先輩ばかりで、求められるレベルの高さを痛感しています。良かったことは、色々な分野を学ぶことができることです。県職員の業務は県民生活と密接に関わっているので、今後生活していく上でも大切な知識が得られます。



橋本

先輩職員の皆さんが本当に親切で、新人のときから丁寧にサポートしていただきました。分からないことを質問してもしっかり聞いてくれ、解決策や今後の参考になることを教えてくださいました。入庁前、県庁は硬直的というイメージを持っていましたが、「電子決裁システム」の導入や「オフィス改革」など、働き方改革の動きがどんどん進んでいることを感じています。

あなたが今「クリエイト」していることを教えてください



伊豆

各所属と連携して、職員が自らのアイデアで働きやすく、働きがいのあるオフィスをクリエイトしています。また、デジタルスキルを生かして業務改善を推進するチーム「デジタルカイゼン隊」や「宮城県行動デザインチーム」を設立するなど、得意分野を生かして、より自分らしく働くことができる新しい庁内複業制度の仕組みをクリエイトしています。業務時間外では、NPO法人において行動経済学やデザイン、データの政策応用に関する研究会や全国自治体への研修講師、大学と連携したウェブサイト運営など、パラレルワークで活動しています。これらの経験が土台となり、有志職員で立ち上げた「宮城県行動デザインチーム」は、全国知事会から優秀政策として表彰されました。



オフィス改革により働きやすい職場づくりが進められています



田村

入庁後3年間は、新型コロナウイルス感染症対応の業務に携わっていました。現在は、ものづくり人材の確保・育成に関する業務を担当しています。業務内容が大きく変わったので、色々と勉強中です。関係機関の方から学んだことを軸に、高校生や大学生の職業観を醸成し、ものづくり業界に興味を持ってもらえる事業をクリエイトしていきたいと思っています。業務以外では、自分自身の強みをクリエイトするために、資格試験の勉強にも取り組んでいます。



橋本

私は、令和5年度に新産業振興課に新設された「スタートアップ支援班」に在籍しています。スタートアップ支援に何がなか、上司や班員と検討し、新しい業務をクリエイトしています。目に見える成果はまだ多くはありませんが、今後の宮城の産業や暮らしを変えるかもしれないこの仕事に、とてもやりがいを感じます。また、県庁報である「県庁“ひと”マガジン」の編集スタッフとしても活動中です。県庁内を「ナナメ」に繋ぐことで、楽しく充実した仕事・職場づくりのきっかけとなることを目的として、若手職員有志が企画・編集し、毎月発行しています。



スタートアップ企業を支援するため様々な取組を実施しています

Message

宮城県職員を目指すあなたへメッセージ

宮城県庁にはたくさんの素敵な先輩と自分の思いを形にする環境があります。一緒に豊かな宮城県をクリエイトしましょう！

様々な経歴や資格を持った方とともに働くことのできる魅力ある職場です。一緒に宮城を支え、未来を創っていきましょう。

地方が行政の変革を担うのは、国際的にも大きな潮流です。宮城を起点により良い未来をともに描いていきましょう。

今後の目標や叶えたい夢は



伊豆

パラレルワークや、リスキリングを本業にも還元してシナジーを起こし、「新しい公務員像」をクリエイトしたいと思っています。自治体が抱える課題は大きい一方、共通していることも多いので、全国的に知見を共有できるエコシステムやネットワークを創り、その中で宮城県からロールモデルとなるような政策を生み出していきたいです。そのためには、デジタルに限らず、新しい知見を身に付けることが大事なので、学び続け、日々アップデートしていける存在でありたいと思っています。



田村

横や斜めの繋がりを意識した政策立案や業務調整ができるような職員になりたいと思っています。組織力を向上させるためには多種多様な連携が重要ですが、「縦割り行政」という言葉もあるように、この繋がりを意識できている組織はまだ少ないように感じます。良い意味で周りを巻き込んで仕事をしていけるように、県の各分野の動向はもちろん、東北各県の動きも日頃から注視し、知識量を増やし、自分を高めていきたいと思っています。



橋本

宮城でスタートアップがアツイ！ぜひ宮城で起業したい！と思ってもらえるように、既存スタートアップ企業への支援はもちろん、地域全体を巻き込んでスタートアップを盛り上げていきたいと思っています。プライベートでは、学生の頃から続けてきたマラソンやトライアスロンも、練習時間を確保しながら続けていきたいと思っています。